

イベントレポート

デザインとアートの街六本木、東京ミッドタウンのデザインイベント 「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2015」

日本のデザインの“今”を知る多彩なイベントが 東京ミッドタウンで開催
 子どもから大人まで、「つながるデザイン」をテーマに楽しめる19日間が好評のうちに閉幕

東京ミッドタウン(事業者代表 三井不動産株式会社)は、2015年10月16日(金)から11月3日(火・祝)まで、デザインイベント「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2015」(東京ミッドタウン デザインタッチ 2015)を開催いたしました。

今年は、「つながるデザイン」をテーマに、東京ミッドタウンのガーデン、ショップ、デザイン施設など街全体を舞台に、多彩なコンテンツで「デザイン」を身近に感じる空間を提示しました。

展示やワークショップを通して、子どもから「デザイン」を仕事にする方まで幅広い世代の方々が楽しさや面白さを感じ、デザインに触れるイベントとなりました。「芸術の秋」に遊ぶ、触る、見る、聞く、食べるといった五感を刺激するイベントとして、今年も好評のうちに閉幕いたしました。



▲ 建築家 隈研吾氏ディレクション「つみきのひろば」

Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2015主なコンテンツ

- ◆ **つみきのひろば**
芝生広場に、隈研吾氏ディレクションの「つみき」と「デザイン」が「つながるひろば」が登場
- ◆ **森の学校 by 六本木未来会議**
今年も都心の森に「学校」が出現。絵画教室や、週末はトップクリエイターによる青空教室を開催
- ◆ **Salone in Roppongi presented by OFFICINE PANERAI**
ミラノサローネで世界を魅了する「日本のデザイン」を紹介。
建築家 中村拓志氏のインスタレーションを展示
- ◆ **MUJI HUT**
無印良品が提案する、これからのライフスタイル。3つの「小屋」がミッドタウン・ガーデンに登場
- ◆ **Tokyo Midtown Award 2015 受賞作品発表・展示**
今年度の受賞作品を一挙公開！人気投票も開催

今年も東京では10月下旬から11月上旬にかけて「TOKYO DESIGN WEEK」や「ANY TOKYO」をはじめ、様々なデザイン、インテリアイベントが開催されました。

その中でも、開催9回目として認知も高まり、多くの注目を集める「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH」は、今年、隈研吾氏の「つみきのひろば」や良品計画が展示する「MUJI HUT」など建築を通して見る「デザイン」や、開催2回目を迎えた「森の学校」での絵画教室や視線で文字を描く「The Eye Writer」の体験など、自分の五感を使って楽しむことができるイベントが揃いました。

週末は「森の学校」青空教室や、1日限りのデザイン・カレッジ「DESIGN TOUCH CONFERENCE」が開催され、現在の日本を代表する様々なジャンルのクリエイターがお子さまから大人まで楽しめるワークショップやトークイベントを行い、多角的に「デザイン」に親しんでいただきました。

まったく同じかたちのつみきをつかった
インスタレーションが
東京ミッドタウンのあちこちに登場しました



▲夜にはライトアップも行った「つみきのひろば」



▲大小さまざまなつみきが織りなしたインスタレーション

今年の「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH」では、森林保全団体more treesのために隈研吾氏がデザインした「つみき」を使い、館内外でさまざまな展示を行いました。

メインイベントとなったのは、都会のまん中に位置する芝生広場にちりばめられた、同じかたちの大小様々なつみきでできた、「つみきのひろば」。国産木材でできたつみきがつながって造られたピラミッドや、小さなお子さまから大人まで楽しめる、若手クリエイター3組が自由な発想で手がけたつみきの展示も行いました。



<BIRD HOUSE STAND>

プロダクトデザイナーの鈴木啓太氏は「森と都市をつなげる」をテーマに制作



<木ヲ見て森ヲ見ズ 森ヲ見て木ヲ見ズ>

アーティストのミヤケマイ氏と建築家の佐野文彦氏は森林について気付きをもたらす作品を展示



<Relax & Joy tsumiki garden>

ガーデナーの齊藤太一氏は緑を身近に感じ、つみきを手に取ることができる楽しさのある作品を提案



週末には約1,000個のつみきで自由に遊ぶことができた、「つみきのあそびば」。多くの親子連れなどでにぎわった



空間デザイナーの松村和典氏がつみきを約1,000個使用し、「まち」を表現したアート作品「つみきのまち」を館内に展示

今回、この同じ形の「つみき」は様々なクリエイターの手で多彩にかたちを変え、世代やジャンル関係なくデザインとつながる本イベントを体現しました。

また、つみきのひろばに使用されたつみきは、東京ミッドタウンで先行販売もされました。



このひとつのつみきで様々なデザインが可能に。デザインを担当した隈氏への取材のため、プレスデーも賑わいました。

プレスデーでの隈研吾氏コメント

「子どもの頃からつみきが好きで、構想に建築物を一つ設計するだけの時間がかかった。一枚の板だったものがピラミッドになり、家や街も作れるかもしれない。頑張り続ければこれだけ大きなものもできるんだということを、子ども達に知ってもらえればと思っています。」

隈 研吾 KENGO KUMA

建築家・東京大学教授。近作に、サントリー美術館、根津美術館、浅草文化観光センター、長岡市民ホール、歌舞伎座、プザンソン芸術文化センター、マルセイユ現代美術センターがあり、現在国内外で多数のプロジェクが進行中。著書は「小さな建築」(岩波新書)「建築家、走る」(新潮社)他、多数。

森の学校 by 六本木未来会議

絵画教室 期間:10月16日(金)~10月24日(土)
青空教室 期間:10月17日(土)、18日(日)、24日(土)
主催: WEB マガジン「六本木未来会議」

昨年の初開催から二回目の開催となる、森の学校。校長先生を務める椿昇氏が太鼓判を押す、様々なジャンルのトップクリエイターによる青空教室は、予約開始後まもなく定員に達した授業もあり、デザインを気軽に学んでいただく機会となりました。クリエイティブユニット「graf」が手がけた黑板に囲まれた「森の学校」は、爽やかな秋空のもとミッドタウン・ガーデンの木々の緑に囲まれて、来場された方々にのびのびと楽しんでいただきました。



▲臨済宗妙心寺派 乾徳山恵林寺の住職、古川周賢氏による、「思惟」についての授業



▲アートディレクター柿木原正政氏による授業は集まった子どもたちも夢中に



▲毎日開催された絵画教室は芸術の秋を気軽に楽しめるイベントとなりました

「森の学校」では、デザインに深い興味をお持ちの方からお子さままで幅広く楽しんでいただける授業を揃えました。アートディレクター柿木原正政氏による「関係」の授業では、子どもはゲームを、大人はレクチャーを通じて「デザイン」について考えました。

また、絵画教室では色鉛筆と画用紙が無料で配布され、都心でのスケッチを楽しむ方が毎日ミッドタウン・ガーデンにいらっしゃいました。秋の風や落ち葉の色合いを楽しみながら描かれたスケッチは、10月24日(土)に椿昇校長が審査。審査会には「見えない根っこを描いてみよう」という校長からのお題にチャレンジした様々な作品が集まりました。優秀者には、絵画教室でも使用された、ドイツの老舗筆記具メーカー「ファーバーカステル」の色鉛筆などが贈られました。

Salone in Roppongi presented by OFFICINE PANERAI

(サローネ イン ロッポンギ プレゼンテッド パイ オフィチーネ パネライ) 期間:10月16日(金)~10月25日(日)
主催: Salone in Roppongi 実行委員会、東京ミッドタウン



▲Diving Bellの様子

毎年4月、イタリア・ミラノで開催される世界最大の国際家具見本市「ミラノサローネ」。「Salone in Roppongi」は、世界中の人々を魅了するこのデザインイベントで活躍する日本人デザイナーや日本企業に焦点を当ててご紹介するイベントです。

今回のインスタレーション「Diving Bell」は、注目を集める日本の若手建築家、中村拓志氏がイタリアが誇る高級時計メーカーOFFICINE PANERAIの持つ世界観を表現。

建築家として「無限の空間を作りたい」という自身の願望と、今年のミラノサローネ会期中の展示も話題になったOFFICINE PANERAIの哲学を融合した、5つのミステリアスなオブジェが設置されました。

深海に潜るダイバーが、真っ暗な世界の中心に落ちていくような感覚と、生命の鼓動のようなものを一度に感じられる、その非日常の状態の中、時計が刻み続ける秒針の音を演出することで、深い安心感をもたらす不思議な感覚を味わえるインスタレーションを提案。

潜水艇のパーツも製造する日本の鉄絞りが手がけた球体のオブジェにすっぽりと頭を入れると、音と光による無限の空間が体験でき、多くの来場者を楽しませました。



中村 拓志 Hiroshi Nakamura

2002年NAP建築設計事務所設立。

建築をコミュニケーションデザインと考え、人が自然や建築と関わり、愛着を感じることを設計のモットーとしている。代表作に「狭山の森 礼拝堂」、「Ribbon Chapel」、「Optical Glass House」、「録museum」など。主な受賞歴にJIA環境建築賞、日本建築家協会賞、リーフ賞大賞などがある。

The Eye Writer Experience 思考と視覚でつながるデザイン

期間：10月16日(金)～11月3日(火・祝)

「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2015」のメインビジュアルを構成した書体、eyeFont(アイフォント/YCAM委嘱作品)。

読めたり読めなかったり・・・子どもの落書きのような線は手を使わず視線の動きのみで制作されたこの書体は、視線のみという不自由さからもたらされる習熟や洗練のない未知の体験によって自由さを獲得しようという試みから生まれました。五感の一つである「視覚」をつかって描かれた文字によるグラフィックデザイン。「視線」と「思考」をつなぐデザインです。

このeyeFontを作る視線入力装置「The Eye Writer」を使い、自分の視線で文字を書く不思議な体験をしていただけるイベントを開催し、多くの来場者にチャレンジいただきました。



▲イベントの様子。視線で字を描くという、初めての体験を多くの方に楽しんでいただきました

MUJI HUT 期間：10月30日(金)～11月3日(火・祝) 主催：株式会社良品計画

700万戸もの中古物件が国内で使われずに眠っている今、気に入った建物を見つけ、そこに新しい価値を見出し自分らしく住まう傾向が加速しています。都会では、コンパクトでも賃貸やリノベーションをしながら賢く心地のいい暮らしを営む。平日はルーティンな生活を送る一方で、休日には郊外に出かけ自然に触れたいくなる。昨今そのような機運が高まっています。

無印良品がミッドタウン・ガーデンに展示したのは、3種類の小屋。ミニマムでありながら豊かな時間を過ごすための小屋を3名のデザイナーと開発し、無印良品の新たな小屋プロジェクトを一足お先にお披露目しました。



▲深澤直人氏デザイン「木の小屋」



▲コンスタンチン・グルチッチ氏デザイン「アルミの小屋」



▲ジャスパー・モリソン氏デザイン「コルクの小屋」



▲期間中多くの方が訪れ、小屋の中も見学しました

Tokyo Midtown Award 2015 受賞作品発表・展示 期間:10月16日(金)~11月8日(日)

東京ミッドタウンのコンセプトでもある「JAPAN VALUE(新しい日本の価値・感性・才能)」を創造・結集し、世界に発信し続ける街”を目指す活動の一環として、今年で8回目を迎える「Tokyo Midtown Award」。次世代を担うアーティスト、デザイナーの発掘と応援を目的に、2015年も(アートコンペ)〈デザインコンペ〉の2部門で作品を募集しました。応募作品の中から、計14作品を選出し、「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2015」期間中に、グランプリ以下各賞を発表、展示を行いました。

アーティスト、キュレーター、デザイナーなど第一線で活躍する審査員を迎え、厳正なる審査のもと14点の受賞作品を決定し、〈アートコンペ〉では、心象風景を194cm×336cmというサイズの細密画で描き上げ、圧倒的な存在感を示した『五金超大国Ⅱ』(ごきんちょうたいこく2)、〈デザインコンペ〉では外国人観光客に向けて「自分が話せることば」を表明するツールとしてデザインされた国旗模様の羽『ことはね』がグランプリに選出され、10月16日(金)に授賞式が行われました。

また、「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2015」期間中の10月16日(金)~11月3日(火・祝)まで、同会場で一般の方による人気投票を実施。多数の応募により、アートコンペ、デザインコンペの中から下記作品が「東京ミッドタウン・オーディエンス賞」に輝きました。



▲オーディエンス賞投票の様子

〈アートコンペ〉テーマ:応募者が自由に設定



〈グランプリ〉

作品名 : 『五金超大国Ⅱ』(ごきんちょうたいこく2)
受賞者 : 田島 大介(たじま だいすけ)

〈デザインコンペ〉テーマ:おもてなし



〈グランプリ〉

作品名 : 『ことはね』
受賞者 : 吉田 貴紀(よしだ たかのり)
栗原 里菜(くりはら りな)



〈オーディエンス賞〉

作品名 : 『未確認生命体』
受賞者 : 三上 俊希(みかみ としき)



〈オーディエンス賞〉

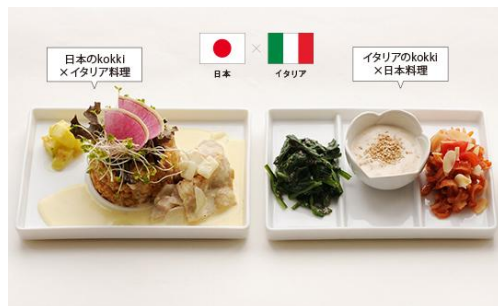
作品名 : 『縦書きレシート』
受賞者 : 吉田 茉莉(よしだ まつり)

そのほか、2015年度の受賞作品や詳細は「Tokyo Midtown Award」公式サイトでご覧いただけます。
<http://www.tokyo-midtown.com/jp/award/result/2015/index.html>

kokki Menu 期間:10月16日(金)~11月8日(日)

Tokyo Midtown Award 2014デザインコンペ優秀賞を受賞した「kokki」。世界共通で認識される4種類の国旗を形取った真っ白な器で、様々な国の料理を、様々な国の国旗に盛り付けることで、国境も文化も隔たりなく卓上で和えることができる、というコンセプトが評価されたこの作品の商品化が決定しました。

これを記念して、東京ミッドタウンの2つのレストランで「kokki Menu」を提供。食べて楽しい「デザイン」を感じていただけました。



▲ukafeで提供されたkokkiを使用したメニュー

その他のイベント 開催の様子

つながるデザイン展～つみきのまち～ 期間:10月16日(金)～11月3日(火・祝)

東京ミッドタウンの各ショップが考える、「つながる」をテーマに集められたアイテムを展示しました。芝生広場で展開された「つみきのひろば」のつみきと同じものを組み合わせた「つみきのまち」が出現し、ショップの商品展示とアートのコラボレーションも楽しむことができました。



▲ガレリア3Fでは「つみきのまち」と共に商品を表示しました。ふたつのフロアで、「OOとつながる」をテーマに様々な商品展示を行いました

DESIGN TOUCH CONFERENCE(デザインタッチ・カンファレンス) 期間:10月25日(日)

場所: 東京ミッドタウン・カンファレンス

講師: 田中良治、水野学・鈴木啓太、中村拓志、長澤忠徳、服部滋樹・平林奈緒美・田中淳一ほか※敬称省略 順不同

第一線で活躍するクリエイターが集結する、1日限りの夢のデザインスクールが開講。熱心に講義を聴く人で会場はいっぱいとなりました。



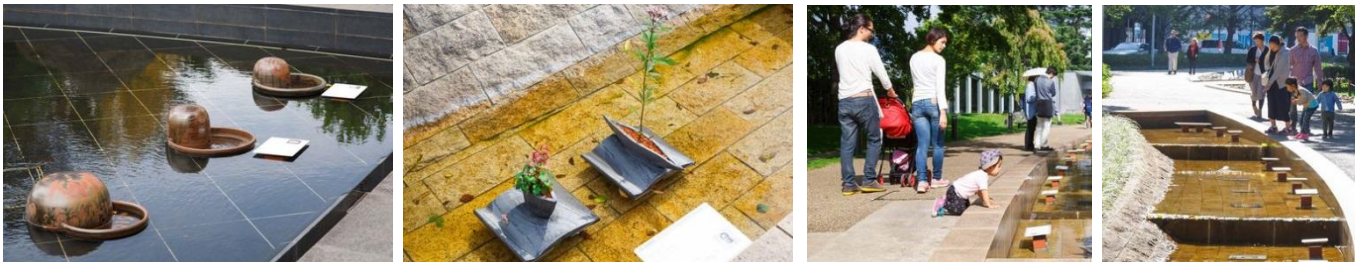
▲開催のようす

JAGDA Kasama / Kawara Exhibition 期間:10月16日(金)～11月3日(火・祝)

主催: 公益社団法人日本デザイナーグラフィック協会(JAGDA) 茨城地区

自然あふれる遊歩道をステージに繰り広げる、日本の伝統工芸と日本を代表するデザイナーたちによる人気コラボレーション企画です。

「笠間焼」と「八郷瓦」という伝統工芸に注目し、茨城県の国指定伝統的工芸品「笠間焼」を湯たんぽや小鳥の水入れに、「八郷瓦」はJAGDAのデザイナーが彫刻を施し、新たな命を吹き込みました。



▲たくさんの作品が、都心であることを忘れさせてくれる遊歩道に展示されました

マツダデザイン展示 期間:10月16日(金)～10月25日(日) 主催:マツダ株式会社

This is Mazda Design. 「クルマを単なる鉄の塊ではなく、乗り手と心を通わせられる生命感にあふれた存在にしたい。」マツダのクルマをアートたらしめているのは、何よりもこの躍動する生命感の表現に捧げる情熱です。

そんなデザイン思想から生みだされた作品(クルマ)を展示しました。

今回は、クルマだけではなく、ミラノサローネで発表したアーティストとの共演により生みだされたアート作品の数々も展示。人の心を動かすために、日本の美意識を追究し、自らに磨きをかけていく中で挑んだアートワーク作品からも、マツダデザインの真髄を感じていただける内容となり、多くのお客さまで賑わいました。



▲「This is Mazda Design. CAR as ART」と題し、マツダのこれからを担うデザインのコンセプトモデルを展示しました

〒107-6205 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー5F Tel:03-3475-3141/Fax:03-3475-3144
東京ミッドタウンマネジメント株式会社